Athena Sources in Children's Literature and Education

CASSELL'S CHILDREN'S BOOK OF KNOWLEDGE

Edited by Harold F. B. Wheeler

カッセル少年少女百科事典

20世紀はじめの子どもたちの知識欲を満たした百科事典を復刻
写真、図版が満載の、社会史研究、文化史研究、教育史研究の貴重資料

定価 本体 178,000円＋税【全7巻】分売可

ISBN 978-4-86340-244-7 ・ 菊判(原寸88%縮小) ・ 4374 pp., incl. 53 col. pl., ill.

Part 1: Volumes 1–3 (A–INC)
定価 本体 81,000円＋税　ISBN 978-4-86340-245-4 ・ 1980 pp., incl. 24 col. pl., ill.

Part 2: Volumes 4–7 (IND–Z + Index)
定価 本体 97,000円＋税　ISBN 978-4-86340-246-1 ・ 2394 pp., incl. 29 col. pl., ill.

Athena Press

20世紀はじめの新しい知識の浸透を目指した百科事典

白井 澄子●白百合女子大学教授

子どもの頃、百科事典や図鑑を夢中で読んだ経験をもつ人は少なくないだろう。20世紀のはじめ、イギリスの子どもたちの知識欲を満たしたのが『カッセル少年少女百科事典』(*Cassell's Children's Book of Knowledge*, 1922–1924)である。カッセル社からこの事典が出版された頃のイギリスは、第一次世界大戦後の不況や心の痛手に苦しみ、人々が内向きになっていった時期だといわれる。一方で、教育面では長年の課題となっていた公教育の問題が、教育法の改正で動き出し、労働者階級を含む若者全体への中等教育制度が整えられようとしていた。児童文学では『クマのプーさん』『ピーター・パン』『ツバメ号とアマゾン号』など、大人の郷愁が見えるものの、子ども期の大切さをとらえた作品が書かれるなど、ヴィクトリア朝とは異なる新しい流れが始まった時期でもあった。

こうした時代にあって、広く世界に目を向け、科学や動物など子どもが興味をもつ事柄について、自ら楽しみながら学べることをうたったのが『カッセル少年少女百科事典』である。しかも、この事典はあらゆる若い読者を意識して出版されたもので、カッセル社の創始者で労働者階級の教育改善を訴えた社会改革者でもあったジョン・カッセル(1817–1865)の意思を継ぐものであった。

今回、復刻された『カッセル少年少女百科事典』は、1週おきに53回にわたって分冊販売されたものをまとめて製本したもので、本体6巻と索引1巻からなっている。取り上げられている項目は、国内外の社会、科学、動植物、文学、芸術、教育、スポーツなど多岐にわたり、若い読者に向けたものではあるが、現代の一般向けの百科事典と比べても遜色がない。しかし、説明の導入部は若い読者を意識して、「きみたちはどう考えるだろう」などと子どもに語りかける形をとりながら本論に誘うなどの工夫がみられる。また、説明を補完する10,000点余りの写真や挿絵が入っており、図鑑的な性格と見て楽しむ効果も狙っていたと思われる。

当時のイギリスはある意味で内向き志向であったかもしれないが、この事典では洋の東西を問わず様々な国が紹介され、科学や技術革新による産業や社会の変化や進歩の様子が説明されるなど、若者に世界の動向を知らせる前向きな姿勢が感じられるのが大きな特徴だ。一方で、「犬」や「帽子」の説明の充実ぶりからは、イギリス人の嗜好が垣間見えて面白い。もう一つの特徴は、項目がアルファベット順に並んでいることである。実は、この事典より少し前に出版されたアーサー・ミー編集による『イギリス児童大百科』(1908–1910)は、「地球と宇宙」「動物」「歴史」「文学」など、あらかじめ設定された19の項目からなり、読者の興味に応じて項目ごとに読むことが前提になっていた。しかし、『カッセル少年少女百科事典』は調べたい項目に効率よくたどりつけるアルファベット順の利便性と、目指す項目を見つけて読み物として楽しむこともできる、という一挙両得的な長所を兼ね備えていた。これは、子どもだけでなく、大人の利用者にとっても使いやすい事典を目指していたからだろう。

現代に蘇った『カッセル少年少女百科事典』は、私たちに多くのことを教えてくれる。たとえば、当時のイギリスの家庭内で事典はどのような役割を果たしていたのか、当時の大人は子どもの知的興味にどう答えていたのか、また子どもにどのような知識を持たせたいと考えていたのかなど、エドワード朝から戦間期の子どもや若者が生きた時代の社会、文化、教育、文学などを知るうえで貴重な資料である。

20世紀の「戦間期」に出版された子ども達のための事典

笹田 裕子●清泉女子大学教授

『カッセル少年少女百科事典』(*Cassell's Children's Book of Knowledge*, 1922–1924)は、20世紀に勃発した第一次世界大戦と第二次世界大戦という2つの大戦の狭間である、いわゆる「戦間期」に出版された。

先に出版された百科事典との最大の相違点は、当時の子ども達にとって未知の領域だったであろう「大戦(World War)」という項目である。本書では、第一次世界大戦(1914–1918)について、その発端からヴェルサイユ条約締結に至るまで、30ページ以上にもわたり詳述されている。図版に描かれるのは、祖国のために勇敢に戦う軍人の姿や、大戦の大規模化に影響を与えた高射砲アーチボルドや戦闘機(複葉機)、イギリスが世界で最初に開発した戦車などをはじめとする大型兵器だけではない。長期化し膠着状態に陥った戦争の象徴ともいえる塹壕、泥の中や急勾配を膨大な人数で大砲を移動させる様子など、この戦争の非人間性も明示されている。その一方で、敵国の旗を無傷でかすめ取ってきた将校のペットのサルに関する実話など、緊張をほぐしてくれるようなエピソードも挿入されている。

ヴィクトリア朝が終わり、前の時代の繁栄の陰に山積みにされていた問題を引き継いだエドワード朝は、新世紀に入ると同時に帝国に翳りが見え始めた時代であった。だが、この「戦間期」は、歴史上最大の戦争を乗り切ったイギリスが、大英帝国としての巻き返しを模索していた時代であったといえよう。本書にも、勢いをもつ大国アメリカに対する称賛と同様に、自国に対する変わらぬ誇りや信念がうかがわれる。

本書では、「ジェイムズ・バリ(James Barrie)」の項目で『ピーターパン』、「ルイス・キャロル(Lewis Carroll)」の項目で『不思議の国のアリス』といった古典が取り上げられているが(いずれの項目でも物語の要約が掲載されている)、「戦間期」のイギリスでも、優れた子どもの本は生まれていた。塹壕で原稿を書いたと言われるヒュー・ロフティングの『ドリトル先生』シリーズの最初の巻も、A・A・ミルンの『クマのプーさん』も1920年代に出版された。

有名な児童文学作家の項のみならず、本書では、動物の項でも読み物の楽しさを味わうことができる。例えば「ネコ(Cat)」という項目は、「今度、子ネコと遊ぶ時、気をつけて見てみよう。自然史の勉強になるよ」といった、子どもを意識した語りかけから始まる。また、ネコの仲間であるジャガーやトラやライオンなどの大型動物が大判の図版で紹介されている。さらに、例えば「ヤマネコ(Lynx)」に興味を抱いた読者が引いてみると、ヤマネコについての説明の後に、ヤマネコが登場する短い物語も付されている。

ハイドパーク内に建設されたクリスタル・パレス(水晶宮)の壮大さと共に、「世界の工場」としてのイギリスの最盛を示すことが目的であった1851年の第一回万国博覧会は、図らずもアメリカとドイツの優れた技術に注目を集める結果となったが、世界初の鉄道を走らせることに成功したイギリスの技術力が決して侮れないものであったことは、本書でも強調されている。例えば、「機関車(Locomotive)」、「飛行機(Aeroplane)」、「自動車(Motor–cars)」、「時計(Clocks and Watches)」などの項目では、詳しい説明と共に豊富な図版を通して構造なども細かく知ることができる。

エドワード朝に活躍した作家イーディス・ネズビットのファンタジー作品は、まるで映画を先取りしているようだと評されることが多いが、「映画製作技術(Kinematograph)」の項目は、当時の映像技術について教えてくれる。「写真術(Photography)」の項目で分かる技術の発達を反映した写真は鮮明で美しく、緻密な手描きの挿絵と併せて、眺めるだけでも楽しむことができる事典である。

主な項目

本百科事典は戦間期における英語圏の少年少女の世界ー視点、世界観、思考態度、どのような教育を受け、何を読んでいたのかーに関心を持つすべての人にとって役立つものです。

自然と地理に関しての記載事項が非常に多くあります。動物に関する記載では、その多くで関連する物語が後ろに付け加わえられています。ボーイスカウト、ガールスカウト、キャンプのような森林技術に人気があったことは「紐結び」や「自然学習」、さらにLouis Agassiz、George Borrow、John Burroughsらの項目を載せていることから見て取れます。

大陸、国、地域、都市についての記述も顕著で、他の民族や人種、大英帝国に属する国々に対する当時の態度を示しています。また直近の第一次世界大戦の経験から、軍に関する事柄や人物は若い想像力に対する働きかけが強く、相当な関心が持たれたようです。同様に冒険や探検家が人気項目で、やはり大英帝国の発展に関係したことに特に関心が持たれました。

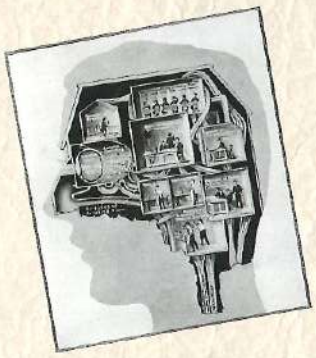
科学、発明、機械、商業的生産などに充てられた項目の多さは、科学や技術の発展に疑いを持たなかったこの時代の精神性をよく示していると言えます。「自然の巨大な力を征服した人類の驚くべき物語」を示すと前書きにも記される通りです。

文学と芸術の項目もまた重要で、しばしば作品内容を伴って示されています。作品の登場人物のほか、宗教、伝説、神話などに出てくる人物にも注意が払われています。

この他にも趣味、スポーツといった多くの項目が含まれます。以下、その一例です。

Nature: Air: The Invisible Ocean in Which We Live • Astronomy: The Wondrous Science of the Stars • Bee: In the Workshop of the Bees • Beetles: The Armoured Bandits of the Insect World • Butterflies and Moths: The Elves and Sprites of Insect Life • Duck: That Great Traveller • Mother Earth's Birthday Book • Evolution: Life's Endless Unfolding • Fossils: The Buried History of the Earth • Geography: Our Wide, Wide World • Geology: The Wondrous Story We Read in the Rocks • Germs: Man's Deadliest Foe, the Microbe • Gravitation: The Force That Hold the Universe Together • Light: Nature's Fastest Traveller • Mammals: The Animal Kingdom That Includes Man • Monkey: Our Acrobatic Cousins • Moon: The Earth's Child, Ruler of the Tides • Spiders: The Robber Barons of Spider Land

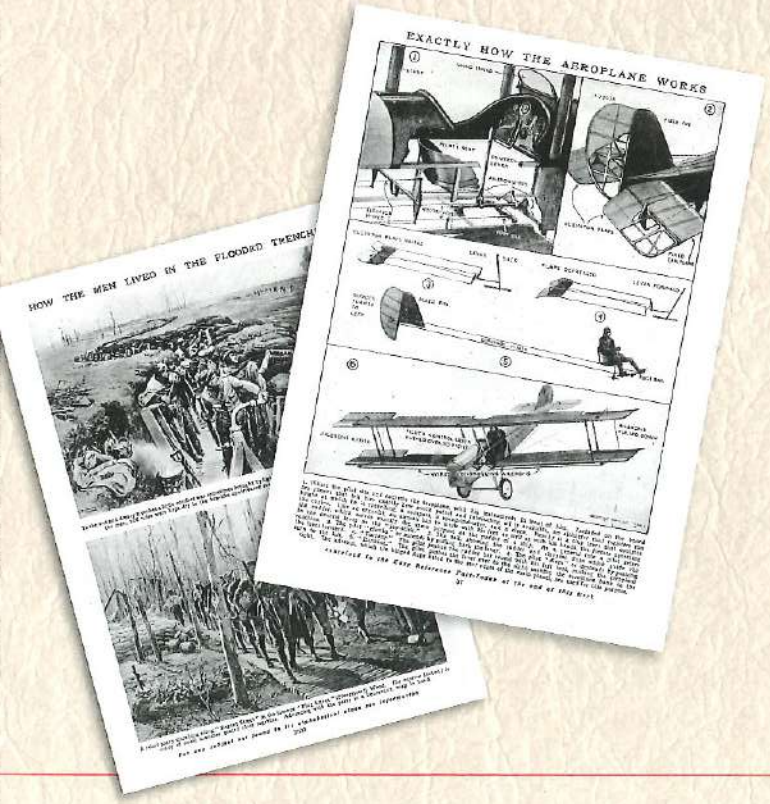
Places: Asia: The Great Mother of Civilization • Balkan Peninsula: The Powder-Magazine of Europe • British Empire: The Empire That Girdles the World • Canada: Britain's Eldest Daughter • China: The Home of Upside Down • England: Mother Land of the World's Greatest Empire • Europe: Mother Land of the Modern World • India: The Teeming Millions of Britain's Indian Empire • Japan, the Land of the Rising Sun: The Story of an Artistic People • Giant London: The Heart of the British Empire • United States: The Rise and Progress of a Vast Republic



People: James Barrie: The Story of the Boy Who Would Never Grow Up • Charles Granville Bruce: The Greatest Climb in History • Geoffrey Chaucer: The Morning Star of English Poetry • Robert Clive: The Creator of the Indian Empire • Charles Dickens and His Story People • George Eliot: A Woman Painter of Word Pictures • Queen Elizabeth: The Glorious Reign of Good Queen Bess • Ralph Waldo Emerson: The Apostle of Self-Reliance • Abraham Lincoln: From Log Cabin to White House • David Lloyd George: The Prime Minister of the "World War" • Henry Wadsworth Longfellow: The Poet of Joys and Sorrows • Samuel Morse: The Inventor of Flying Words • William Shakespeare: The "Myriad-Minded," Chief Glory of the English Stage

Science and Technology: The Amazing Story of the Aeroplane • Balloon: How Man Learned to Travel on the Highways of the Sky • Brain: The Marvellous Machinery • Bridge: The Bridge Builder and His Work • Submarine Cables • Canals: Linking the Cities with the Seas • Electricity: The "Fire of Heaven," Man's Friend and Foe • Explosives: Modern Titans That Move Mountains • Gas: The Invisible Fuel • Gramophone: The Wonder Machine That Talks • Kinematograph: Wonders of Moving Picture Land • Locomotive: The Wonders of the Railway Engine • Microscope: The Explorer of the Unseen World • Motor-Car: How It Works • Marvels of the Monotype and Its Type-Caster • Panama Canal: Tragedy and Triumph • Photography: The Mechanical Eye That Sees for All • Telegraph: The Flashing Wires That Girdle the Earth • Telephone: Teaching Electricity to Talk • Building a Great Telescope • Wireless: Flashing Words on Lightning Wings

Economy and Industry: Agriculture: How the Farmer Feeds the World • Blast-Furnace: The Birth of the Giant of Modern Industry • Cloth and Clothing Industry: Suits by the Million • Coal: The Black Diamonds That Do the World's Work • Coinage • Commerce: Ties of Trade That Unite the World • Cotton: Her Wonderful Gifts to the World • Economics: The Misnamed "Dismal Science" • Furniture Making • Gold: The Metal That Measures the World's Wealth • The Miracles of Iron and Steel • Knitting Machines • Leather: How Hides and Skins Become Leather • Lumber: From Logging-Camp to Sawmill • Newspapers: The World's History, Day by Day, Delivered to Your Door • Oil and Its Many Uses • Sugar: The History of a Lump of Sugar • Wool: How the Sheep's Coat Gets on Your Back • Tea: When the World Sits Down to Tea



Military: Army: When Nations Settle Quarrels by War • Battle-Ship: The Hard Hitters of the Navy • Guns and Rifles • Military: Soldiers of Many Lands • Naval Training: How to Become a British Sailor • Navy: Grim Guardians of the Seas • World War: The Greatest War in History

Art and Literature: "Arabian Nights": One of the World's Great Books • Architecture: The Story of the Ages in Chapters of Stone • Robinson Crusoe in Fact and Fiction • Engraving: The First Step in Making a Half-Tone Printing Block • English Language and Literature • Fine Arts: The Artist's Eternal Quest of Beauty • Glass: The Magic Art • Musical Instruments

Religion, Mythology and Legend: King Arthur: The Glorious Founder of the "Table Round" • The Story of Christianity • Esther: The Jewish Maiden Who Became Queen of Persia • Fairies • Galahad • Madonna • Magic: Charms, Spells, and Incantations • Monks: Life in Cell and Cloister • Thor

School Learning: Addition Without Tears • The Wonderland of Arithmetic • Fractions • Geometry: Measuring Angles, Surfaces and Solids • Grammar: Forming Our Everyday Speech • Mathematics: The Science of Number and Quantity • Multiplication: A Simplified Method • Nature Study: Learning to Read in Nature's Book

Sports and Games: Athletics: Building Brain and Body • Baseball • Basketball • Boats and Boating: The Many Steps from Raft to Motor-Boat • Boxing • Camping • Chess • Fencing • Football • Golf • Kites • Knots • Lawn Tennis • Swimming

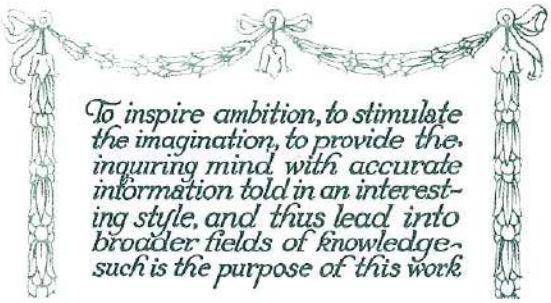
Miscellaneous: Books and Book-Making • Boots and Shoes • Bread and Biscuits • At Home with the World's Children • Christmas Carols Round the Globe • Clocks and Watches • Costume: The Pageant of Dress • Etiquette: Some Do's and Don'ts • First Aid: What to Do till the Doctor Comes • Food: What to Eat to Build Healthy Bodies • Government: The Business of Running a Country • Hats and Caps • Hygiene: Your Health and How to Keep It • Lighthouses and Lightships • Montessori Method • National Songs • Strange and Beautiful Stamps of Many Lands

本書について

この百科事典は、もともと1922年9月から1924年9月にかけて出された全53号の隔週刊を7巻に製本したものです。隔週刊一号あたりの構成は80ページとカラー図版1枚で、第1巻から第6巻は各巻それぞれ8号分を、第7巻は5号分を収めています。

出版元のカッセル社Cassell & Co.は19世紀半ばに、労働者階級の生活向上のために教育が重要であると認識していた社会改良主義者John Cassellによって設立されたもので、当初労働者たちの独習や自己修養のためのタイトルを数多く出版、以来20世紀にかけて同社が出した人気の教育書や教育雑誌は労働者階級から中産階級まで広く読まれました。

本百科事典の読者層は、比較的年齢層の高い子どもたちです。この年齢層の子どもに対する教育の市場は、小学校卒業後の教育に国が直接関わっていくとした1902年の教育法制以後、数十年にわたり特に拡大し続けていました。いわゆる少年少女層の独習・自己修養を目的としていて、それは表紙にも示されている通りです。



また本百科事典は、子ども向けのABC配列の現代的な百科事典として初めてのものとされます。前書きによると、総製作費は当時において巨額の20万ポンドを費やし、項目説明はすべて新たに書き下ろされ、写真と絵画が1万枚以上用いられています。第1巻から第6巻がアルファベット順に記載事項が並ぶ本体部分、第7巻は"Fact-Index"と称する索引巻です。本体部分の記載事項は各項目の説明だけにとどまらず具体的な事例やその関連事例などへと縦横に広がりと深まりを持たせており、同時に写真や図版をふんだんに用いて子どもたちの関心に応える構成になっています。索引巻は、検索事項の詳細な記述のある本体部分を示すだけでなく参照すべき関連項目についても記載箇所を示していて、いわゆる「クロスレファレンス」の機能を持ち合わせていることが大きな特徴です。さらに新たな事項、人物、地名などが簡単な説明とともに追加されて、補遺としての役割も担っています。

非常に好評を得た本百科事典はじきにカッセル社の子会社で訪問販売と予約販売を専門にするWaverley Book Companyの専売となり、またこの後「子どもと大人の」両方に向けた百科事典に位置付けが改められてタイトルも変化、*The Book of Knowledge*さらには*The New Book of Knowledge*となって1950年代に至る30年間にいくつもの新版が様々な編集者のもとで刊行されてきました。

ここで1908年から1910年にかけて刊行されたArthur Meeの雑誌*The Children's Encyclopaedia*との違いを見ておきましょう。アメリカではThe *Book of Knowledge: The Children's Encyclopaedia*というよく似た書名で販売されたMeeのものは、ジャンル毎に分量の多い文章で構成され、聖書から引いた物語やこぼれ話の情報なども盛り込まれた、独特の構成を持ついわば博学読み物です。一方このカッセル社のものは入念な計画と豊富な製作資金による、当時の最先端の知識を盛り込んだ参考図書で、まさに百科事典の構成と内容を備えたものです。

【発　行】
Athena Press
株式会社 アティーナ・プレス

〒112-0011　東京都文京区千石4-33-18
Tel：03(3946)2117　Fax：03(5977)8026
E-mail：eigyo@athena-press.co.jp
http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】